

業界のタイムリーな情報をお手元に

ビルメン

<http://www.fukuoka-bma.jp>

FUKUOKA

10

2010年度 第16回 **都市ビル環境の日**
第3回「子ども絵画コンクール」優秀作品 ▶

2011(平成23)年 神無月 :Volume 214



『世界の小さなエコ』久留米市立南小学校5年 井上 花夢さんの作品

編集・発行 / 公益社団法人 福岡県ビルメンテナンス協会 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目15番12号(藤田ビル2F) TEL (092) 481-0431 FAX (092) 481-0432



ビルメン再起動への 会長伝言板

公益社団法人
福岡県ビルメンテナンス協会
会長 金子 誠



東日本大震災の三ヵ月後（6月）に一度被災地訪問させていただきました。そして今回、六ヵ月後（9月）にBM青年部有志と共に再び現地を訪れました。

三陸沿岸部で甚大な被害を蒙った同業者と面会しましたが、一番に「九州福岡からの迅速な手厚いご支援に感謝申し上げる」と会員の皆さんへの御礼の言葉を預かりました。

詳しくは、本誌掲載の青年部「東日本被災地視察報告」に目を通してください。

= 10月4日『都市ビル環境の日』

みんなで身体も頭もいい汗をかきましょう！ =

今年は東日本大震災に始まり、相次ぐ大型台風に日本全土が脅かされています。本年はビルメンテナンスとして担うべき“都市防災”はどのようなものであるかを体系的に学びたいと思います。

10月4日、会場でお会いしましょう。

東日本被災地視察報告

平成23年9月6日（火）～8（木）2泊3日

【参加者】金子会長 森永青年部部長 木戸、野田、高原各部員 計5名

【訪問地】岩手県釜石市・大船渡市・陸前高田市、

宮城県石巻市・東松島市・塩釜市・仙台市・名取市

去る9月6日～8日に掛けて、青年部有志及び金子会長の計5名による東日本大震災被害状況の視察報告を致します。

行き場のない支援物資

視察初日、我々一行は仙台からレンタカーで盛岡へ向かった。

岩手県協会会長、副会長、理事、事務局長、会員の計7名の方々に出向いて頂き、懇切な交流の場を設けて頂いた。出席頂いた会員企業が運営している指定管理者物件が現在支援物資の拠点となっており、翌9月7日に訪問させていただいた。

その施設は秀峰岩手山のふもとにひろがる、緑豊かな自然環境の中、20,000㎡の広大な敷地をもつ多目的催事場であった。平時ならば大規模な各種大会、展示会、コンサートやスポーツを開催するその施設は、大震災を機に、岩手県に集まる支援物資の一時保管場所に様変わりしてしまった。3,000台収容の大駐車場は、溢れんばかりの物資と自衛隊の支援基点となり、ヘリコプターも着陸する場所となったそうである。

震災から半年経った支援物資の現状を見せて頂い

た。広大な施設内には未だに多くの支援物資が行き場なく積み重なっていた。紙おむつ、水、海外からの非常食、タオル……棺桶までも。特に食物、水等は賞味期限があるので、いつまでも保管するわけにはいかない。が、しかし、行き場が無い。岩手県に充てられた支援物資を他に回すガイドラインが無く、また、支援物資を移動させるにも運送料がかかる。指定管理者は、独自に決める事は出来ない。今、これらの余った物資をどのようにするか検討中であるとの事。本来の指定管理運営から、倉庫の管理へと変わってしまったその企業の社長はため息をつく。契約を交わしている指定管理料も、この想定外の震災によって変化してしまうと。この件は現在、県と交渉中でまだ解決していないとの事であった。

「しかし、この震災により行政と連携する事によって一体感が生まれ、地元行政と企業との一層の信頼関係も生まれた」。この震災を機に、地元の為に汗を流す企業と行政との強い絆が生まれた事を、不謹慎ながら羨ましく思った。



行き場のない支援物資

前進する被災企業

9月7日、岩手県協会会員である釜石市のA社を紹介して頂きお伺いした。その企業は、津波によって会長、社長の2トップを失った。その甥にあたる方が現在、新しい社長として必死に事業再開に取り組んでいる。その若き社長は視力を失っており、何も見る事が出来ない。震災当日のお話を移転した新事務所兼倉庫にて伺った。

A社は、釜石港から僅か500メートルの所に3階建ての社屋を構える(構えていた)ビルメン企業である。震災が襲ったその時、会長、社長そして現社長は2階事務所にいたという。大きな揺れがあり、電力供給が止まるので当然テレビを見る事が出来ず、今何が起きているか、何が起ころうとしているか把握できない。防災無線や周りの叫び声で津波が来ている事は分かったが、今までの経験から大した津波ではなからうと会長と社長、そして現社長は2階事務所に留まっていた。

津波が釜石港を襲ったその時、現社長はポケットに入れていた携帯電話のワンセグテレビのボタンを押し、今までにない規模の大津波が来ている事を音声により知る。「津波が来ています！早く上に上がりましょう！」。2階から3階へあがる階段の途中、津波が建物を襲った。

生死を分けた階段。生死を分けたワンセグの情報。「ここまで大きな津波が来るとは思っていなかった。我々の認識の甘さもあったと思います」。若き社長は当時をそう振り返った。津波による被害、弊害で管理している物件も残念ながら減ったが、若きリーダーが再建に取り組むその企業は、今人出が足りない状況にあるという事であった。

がれき撤去の進む釜石の港町に残るその旧社屋を見せて頂いた。まだ新しい社屋であったが、津波の凄まじさが見て取れた。2階の窓の汚れが、津波の高さを物語る。1階倉庫には錆びて散乱したワックス缶、泥だらけのカーペットエクストラクター、社員用の下駄箱の周りには散乱したままになっている靴。

社屋向かいの基礎だけ残った、確かにそこには家が有った場所に向日葵が力強く咲いていた。若き社長の確実に前へ進んで行く姿と向日葵が被った。



津波に襲われた釜石市のA社1Fの惨状

残った街と消えた街

釜石市を後にした一行は、大船渡市に立ち寄った。世界三大漁場であったその町を8m以上の大津波が襲い、もはや瓦礫と廃墟の港町と化していた。町を流れる小さな川はどこかでせき止められているのであろうか、酷く濁り異臭を発している。蠅もまとわりつく。

道端の側溝も泥やヘドロでせき止められているのであろうか、同じ様相であった。街は地盤沈下も甚だしく、海水が溜まって途中引き返す道もあった。港近くにグチャグチャのまま立つビルの1階部分の壁がぱっくりと割れ、泥とがれきが詰まっていた。中に入ってみると、そこがスナックであった事が分かった。カウンターやベロア素材の椅子、散乱した食器類。オーナー家族と思われる写真アルバムも、半分泥に埋まった状態になっていた。そのビルの横にATMコーナーがあったが、パールでこじ開けられた跡があった。犯罪でなければ良いのだが、その真相は分からない。

街灯は千切れ、鉄筋だけがむなしく折れ曲がり、アスファルトに沿うように剥き出しのままグニャリと横たわっていた。建物によってせき止められ、山となった瓦礫がそのまま残っており異臭を放つ。

*

そこから陸前高田へ向かう。晴天の中、三陸海岸の海は風でとても綺麗だったが、その海が荒れ狂う様子を報道で見、また、その威力、破壊力をこの目で見せられると最早恐怖でしかなくなった。

市そのものが消え果てた陸前高田は、震災から半年経ち瓦礫処理も進んでおり、荒地の中に積まれた瓦礫は、産廃の集積場のようになっていたが、やはり幾つか残る建物を見て、とてつもない被害を被った場所だと実感した。5階建ての団地の4階部分までガラスが割れており、如何にこの街を襲った津波が

高かったかを見せつけられた。

避難するにも山が遠い。亡くなった方々は、さぞその地理条件を恨んだ事だろうと思う。水田かと思つた場所は、海水を被ったままの基礎だけ残った住宅街であった事が分かり、言葉が出なかった。水の中に小魚が泳いでいた。

この街は消えた。これは、360 度見渡さないと分からない。破壊された建物が多数残る大船渡と、殆ど更地のようにってしまった陸前高田。

地理条件だけで津波による被害がこうも違うのだろうか？それとも各自治体の瓦礫処理速度差によるものであろうか？



陸前高田市 団地の4階まで破壊されていた



大船渡 そのままの瓦礫

石巻の惨状

9月7日の夕方、我々一行は陸前高田より仙台へ向かい、宮城県協会会長、副会長、事務局長の皆様にお忙しいにもかかわらず、温かな交流の場を設けて頂いた。

仙台市は海が近く、TVでの津波報道も生々しかった若林区や、隣接する名取市、仙台空港に近く、混乱を極めたという。会員企業も甚大な被害を受けたとのこと。

鈴木会長も家にたどり着くまでにとんでもない時間がかかった体験や事業再開までの道のり、協会事務局も揺れるキャビネットを抑え、結果散乱した後の片付けなど大変な思いをされたとの事であった。

多くの協会員が集まる仙台市内及びその周辺が多数被災した為に、各社復帰までかなりの時間がかかり、長い間仕事にならなかった企業が多かったとの事で、実際にこの大震災が福岡で起こっていたら、我々はどうなっていたのだろうか？と身震いした。

*

9月8日最終日。我々一行は、早朝より石巻市に向かった。道中自動車道を通るのだが、瓦礫処理のトラックや建築関係者の車で渋滞が起こっていた。

石巻市街地に入る。商店街の目抜き通りを過ぎ、港が近づいてくると風景が一変した。そこは焼け野原であった。全壊、半壊が半分以上の割合で民家が残りに、未だ手つかずのまま放置された状態が殆どで、寒気が走った。そこは3月11日で時間が止まっていた。

焼け焦げた小学校を発見した。近くに自転車を漕ぐ地元の方であろうご婦人に話を伺うと、その小学校は震災当日避難場所であったとの事。かなりの車が校庭に集まり、車の中に多数の避難者が乗っていた。そこに津波が押し寄せ、残骸がプロパンガス漏れや船舶の重油にまみれ、倒れた電柱がショートを起こし一気に火が回った。津波火災である。火は一気に避難していた車を焼き、車を爆発させ、学校も燃えつくしたとの事であった。

学校の廻りにはいくつかのお寺と墓があったが、本堂は潰れ、墓石が散乱している。墓石を綺麗に並べるボランティアの方々が汗を流しているそのすぐ後ろにテニスコートがあった。そこには、初老の男女グループがカラフルなテニスウェアを纏い、テニスに興じていた。我々はその落差に啞然としたが、現地の方々の意識は被災しないと分からない。この光景に頭が混乱した。



焼け焦げた校舎

主無き家

石巻港に日本製紙の巨大な工場がある。その北側に大街道という住宅地がある。どこにでもある住宅地だが、半壊の家がそのまま残りゴーストタウンと化していた。その住宅地の中を車でゆっくりと入ってみた。解体作業する業者はいたが、住民と思しき人は誰もいない。

長屋が集まる袋小路の中に車を止め、半壊した家々

を覗いてみた。泥がそのまま残り、小さな子供が居たと思われるその家には、キャラクターグッズが散乱し、軒先におもちゃが引っ掛かっていた。

今回視察した青年部メンバーは皆小さな子供を持つ。一同言葉を失い「もうここから出ましょう」との声がかかる。

家を解体しようにも、主がもう居ないのかも知れない。金銭的な事情もあるだろう。この街が復活するまでに、どのくらいの時間がかかるのだろうか？それ以前に、どれ程の住人たちが無事だったのだろうか？

その近辺を境に、被害の無かった商業地区に景色は変わる。とあるスーパーマーケットに立ち寄った。入口横の喫煙コーナーには、我々と同年代であろう男性たちがぼんやりと煙草を吸っていた。スーパー内には、小学生の子供を連れのお母さん。父親達は仕事を失い、子供達は学校に行けないのであろうか？

学校があり、住宅地があり、スーパーがある。我々の住んでいるところと何ら変わらない環境だけに、自分の生活環境と照らし合わせてしまい、酷く落ち込んでしまった。



軒先に引っ掛かったままの玩具

総括

今回の視察で、岩手・宮城両県を各県協会の方々にサポートを頂きました。同じ業界の方々の目線からのお話を伺う事が出来た事によって、より現実的に感じる事が出来、一番大変な思いをされている現地同業の方々のご厚意を賜り、大変感謝致します。

また、福岡県協会からの義援金、支援等に感謝の言

葉を頂きました事をこの紙面をお借りしてご報告致します。

3月11日以降、福岡よりTV報道や雑誌での情報でしか得られなかった被災地のより細かな現状を見る事が出来、この目で実際に見た被害の凄さには声が出ない程の衝撃が走りました。

帰福して1週間が経ちますが、事あるごとに被災地の事を考えてしまいます。

今回、大変お世話になった岩手、宮城両県協会の皆様の実体験談、自ら感じ、思った事を踏まえ、会社としてやるべきこと、備えておくべき事は何か？福岡に大災害が起きた場合、この体験を如何に役立てる事が出来るか？等を考え込んでしまいます。

会社内、家庭内での危機管理マニュアル、防災意識の向上、災害が起きた後の会社としての対応や事業再開までの方法、家族の安全対策などを考えると、実際に被災された方々の苦勞がどれだけ大変なものであったか計り知れません。

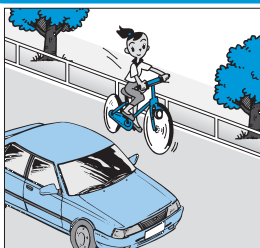
*

今、何気なく送っているこの生活が、どれだけ幸せなことであるかを噛みしめ、この未曾有の大災害で被災された多くの方々に少しずつ笑顔が戻る事を願ってやみません。復興には、とてつもなく長い時間がかかる事になるかもしれませんが、私たちも自分なりに出来ることで応援したいと思います。



逞しく咲くこの向日葵のように力強く、一步一步復興へ向けて歩み始める彼の地の人々の為に我々が出来る事は何か？

シリーズ② 自転車運転のルール 安全で快適な利用のために 労働福祉委員会



車道左側通行が原則、歩道は例外

前号で紹介したように、自転車は道路交通法上、軽車両です。歩道と車道の区別があるところは車道の左側通行が原則です。

(法第17条第1項、第18条第1項)

違反した場合

3カ月以下の懲役又は5万円以下の罰金





ビルの省エネ指南書 (17)

東洋ビル管理株式会社
省エネルギー技術研究室

室長 中村 聡

窓のチューニングポイント [其の1]

■ 窓とブラインド

外気温度が33.2℃と高い日に温度測定を行って見た。天候は晴れたり曇ったりで、常時日射があったわけではない。

センサーは正確性と感度を重視して、熱電対センサーを使うことにした。センサー部分が細くて長いのでブラインドの隙間に入りやすく、ブラインド効果が正確に分かるだろう。

1、ブラインド室内側の温度を測定

最初は、ブラインドが閉まっている状態から測定を開始することにする。



写真-1 ブラインドを閉めた室内側温度

写真-1は平成23年8月8日11時台の温度である。28.9℃で少し高め温度であるが、ブラインドが閉まっているといっても写真のような隙間が多い状態であり、ブラインドの直ぐ手前であることと、部屋の隅であるため冷気が届きにくいことも影響して温度が高くなっているようだ。温度よりも温度差を調べるのが目的だが、同じように測定しても測定場所や室内温度と気流、屋外条件によっては違う結果になるだろう。

2、ブラインドと窓ガラスの間で測定

先ほどの状態のまま温度センサーをブラインドの隙間から窓ガラス側に入れて、窓ガラスとブラインドの間の温度を測定する。窓が南向きのため、センサーが直射日光の影響を受けないように、窓枠の陰になる位置にセンサーがくるようにして測定した結果、温度が32.1℃となっており、ブラインド室内側と比べると3.2℃高い温度である。



写真-2 ブラインドを閉めた裏側で測定

前回測定した時は、天候が曇りで外気温度が30.7℃であった。その時は2.7℃の差であったが、外気温度が高くなるほど窓とブラインド間の空気層の温度が高くなるので、室内側との温度差が大きくなっている。

3、ブラインドを水平にして室内側で測定

今度はブラインドのスラット (slat) を水平にして、十分に時間をとってから測定した。スラットの間から空気が流れ、熱の移動が終わるのを待ってから温度を測定するためである。



写真-3 ブラインド水平での室内側温度

写真-3の表示が見難いが28.9℃である。

意外にも、ブラインドを閉めて測定した結果と同じであった。窓側の熱が室内側へ漏れているはずだが、漏れた熱は室内側の冷房に吸収されて温度が上がるまでにはなっていない。

4、ブラインドを水平にして窓側で測定

次に、スラットを水平にした状態のままブラインドと窓ガラスの間の温度を測定した。

水平になったスラットの間からセンサーを入れ、スラットを閉めて測定した時と同じく、窓枠の陰にセンサーがくるようにした。



写真-4 ブラインドを水平にして窓側で測定

温度が31.5°Cとなっており、ブラインド室内側と比べると2.6°C高い温度である。スラットを閉めていた時が3.2°C高かったので0.6°C低くなっている。外の景色が完全に見える状態なのに、2.6°Cの差を保っていることに注目したい。スラットを閉めたほうが窓ガラス面の気流は減るのだが、スラットを水平にするだけでも、ブラインドと窓ガラス間にある空気層の気流を減らす効果があるようだ。これならば外の景色も見えるので開放感があり、明かりが入ってくるため窓側の照明を減らすことも可能だ。

スラットが水平でも窓ガラスとの間に気流がなければ空気層の温度を保ち保温効果があるが、扇風機の風やファンコイルの給気を窓側に向けると水平のスラットでは風を遮ることができず、室内側の空気が窓ガラス側に一気に流れ込み、空気層に気流を作ると保温効果がなくなるので注意が必要である。

5、ブラインドを完全に上げて窓側で測定

ブラインドを完全に上げて、先ほどと同じセンサーの位置にして温度を測定した。

写真-5のように温度が28.8°Cである。ブラインドを完全に閉めた時や水平に使用した時の室内側の温度よりも0.1°C低くなっている。



写真-5 ブラインドを上げて窓側で測定

ブラインドと窓の間にあった空気層は、瞬時に室内空気に吸収されてしまったのだ。ブラインドは日射防止に役立つだけではなく、窓ガラスとの間の気流を抑制することで空気層を作り、空気の移動を遮って保温する効果があることが分かる。

冷暖房時は日射の有無に関係なく、常にブラインドを下げてスラットを水平使用し、日射のある時や終業時には閉めるようにするのが省エネになるようだ。ブラインドの上げ下げは大変だが、スラットの角度調整だけならば簡単である。スラットの水平使用ならばブラインドを上げた場合と明るさも殆ど変わらず、見た目も気にならないために、室内環境を変えない簡単な省エネ対策として非常に有効である。

6、ブラインドを完全に上げて窓の外を測定

最後に、窓を少し開けた隙間からセンサーを外に出して測定した。この屋外温度33.2°Cの熱の侵入をブラインドで防ぐことができるのだ。



写真-6 窓の隙間から屋外を測定

平成23年度 福岡県BM協会ボウリング大会開催

日時 平成23年8月26日(金) 18:30~
会場 博多スターレーン
参加者 22チーム 66名

恒例の福岡県BM協会ボウリング大会が8月26日(金)、博多スターレーンにて開催されました。22チームが日頃の練習の成果を競い合い、今年は大成(株)福岡支店チームが見事優勝。「団体の部」「個人の部」の上位入賞者は以下のとおりです。次回をめざして、今からしっかり腕を磨きましょう。



優勝した大成(株)福岡支店チーム
村上 俊輔さん/坂本 彩乃さん/小川 紘司さん

優勝チーム
喜びの声

ボウリング大会は必ず出席していましたが、賞を頂けたのは過去に1度だけ。チームで7位でした。それからは毎回散々な結果に終わっていましたが、今回優勝する事が出来て自分たちもビックリしています。次回は2連覇を目指します。ありがとうございました。

団体の部		
優勝	大成(株)福岡支店	スコア/867
準優勝	(株)サニクリーン九州	スコア/855
3位	三笠特殊工業(株)	スコア/844
個人の部(ハイスコア)		
男性	江里口 幸宏 (株)ケイアンドケイ	スコア/188
女性	坂本 彩乃 大成(株)福岡支店	スコア/156

10月 行事予定

4	火	都市ビル環境の日 *クリーンアップ福岡(10:30~12:00) 於:福岡県内主要都市中心部 *シンポジウム(13:30~) 於:アクロス福岡1F円形ホール *子ども絵画コンクール:福岡(4日~9日) 於:アクロス福岡1Fコミュニケーションエリア *子ども絵画コンクール:北九州(11日~14日) 於:北九州市役所1階ロビー
6	木	調査広報委員会(14:00~) 於:県協会会議室
13	木	ビルメンヒューマンフェア'11 in 新潟(13日~14日) 於:朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター
14	金	平成23年度懇親旅行(14日~16日)
19	水	第21回理事会(15:00~)
28	金	病院清掃従事者研修 於:ももちパレス

表紙の
写真

葛籠棚田の彼岸花(浮羽町)



葛籠棚田は、浮羽町の葛籠(つづら)地区にある約7haの棚田。平成11年に農水省の日本棚田百選に選ばれています。棚田の縁取りを描くように彼岸花が咲いている様子は、日本の農村の原風景といえます。毎年、この彼岸花が咲く頃に、棚田を彩る彼岸花と山間部の特産物を楽しむ「棚田inうきは彼岸花めぐり&ばさら祭」が開催されます。

賛助会員に関する変更のお知らせ



- 会社名
(株)テラモト福岡営業所
- 変更事項 代表者及び協会担当者
- 変更日 平成23年9月1日
- ◆代表者/協会担当者
【新】福岡営業所長 山根 照雄
【旧】福岡営業所長 古屋 広幸

10月 各地の主な催し

【福岡地区】

- 1日 みあれ祭(宗像市)
- 8日 小石原民陶むら祭<~10日>(東峰村)
- 12日 住吉神社相撲会<~14日>(福岡市博多区)

【北九州地区】

- 8日 胸の観音(秋の大祭)<~9日>(みやこ町)
- 15日 小倉城まつり<~16日>(北九州市小倉北区)

【筑豊地区】

- 23日 トロッコフェスタ(嘉麻市)
- 下旬 上野焼秋の窯開き(福智町)

【筑後地区】

- 8日 コスモスフェスティバル<~9日>
(久留米市/コスモスパーク北野)
- 8日 大川木工まつり<~10日>(大川市)

※紹介している催しは、場合によっては変更されることがあります。お出かけの際は各市町村に確認してください。

●お忘れなく: 毎月10日は「災害発生報告書」提出締切日です。/毎週金曜日は知事登録業務相談窓口開設日です。

事務局からのお願い 常に最新の情報を入手するためにも、県協会のホームページ及び全協JASMINの定期的なチェックをお願いします。